



森田拳次「8月15日をさかいに」



ちばてつや「引揚船は大きくてたくましく見えた」

戦争のおわり

マンガで ひもとく ひき あ 引揚げ展

ヒストリアながと × 平和祈念展示資料館

2023 9.1(金) - 12.10(日)

開館
一周年

ヒストリアながと

山口県長門市東深川 2660-4

※月曜日休館(祝日の場合は翌平日が休館)



開館時間 ▶ 9:00~17:00 (入館は16:30まで)

主催：長門市総合文化財センター(ヒストリアながと)
平和祈念展示資料館(総務省委託)

入場無料

引揚げのはじまり



北見けんいち「引揚げ船上から見た日本は本当に美しかった」

マンガで ひもとく

ひきあ 引揚げ展

ヒストリアながと
×
平和祈念展示資料館



林静一「母に抱かれて」

1945年8月15日の玉音放送を経て、9月2日に日本は降伏文書に調印し、第二次世界大戦がおわりました。この同じ日、約7千人をのせた引揚船が、朝鮮半島のプサンから仙崎(今の長門市)に入りました。こうして海外に取りのこされた人たちが、日本に帰国する「引揚げ」がはじまったのです。戦争に負けて海外での暮らしを失った人たちにとって、ふるさとに帰るまで、戦争がおわることはありませんでした。

こうした引揚げと関わりの深い長門市で、「マンガでひもとく引揚げ展」を開催します。本展では、人気マンガ家が子どものころに体験した「中国からの引揚げ」をえがいた作品を紹介します。これらの作品には、戦争や引揚げを知らない子どもたちに、自分たちの体験を伝えたいという想いがこめられています。

戦争がおわるまで海外にいた日本人は、どのような暮らしをしていたのでしょうか。戦争に負けた後、女性や子どもたちは、どのように生きぬいたのでしょうか。そして、どうやって帰ってきたのでしょうか。「引揚げ」について、マンガでひもといってみませんか？

引揚港 になった 仙崎

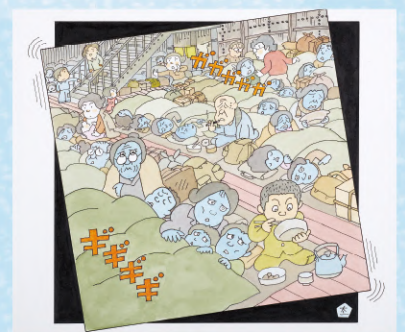
戦争がおわり、海外から仙崎に帰ってきた日本人は約41万人。仙崎から朝鮮や中国に帰っていった人々は約34万人。1年あまりで、人口約9千人のおだやかな港町は、約75万人もの人々が行き来する引揚港へと変わりました。



北見けんいち「父はシベリアへ」



赤塚不二夫
「でっかいリュックを背負ってかあちゃんにしっかりつかまって」



山口太一「揺れる引揚船の底で」

※平和祈念展示資料館が所蔵するマンガを展示します。

開館 一周年 ヒストリアながと



長門市の自然や歴史や文化に関する資料を紹介するところです。

山口県長門市東深川 2660-4 TEL:0837-22-3703 FAX:0837-22-3700
<https://www.city.nagato.yamaguchi.jp/soshiki/63/41812.htm>



平和祈念展示資料館(総務省委託)

第二次世界大戦が終わってからも、つらい体験をした兵士、シベリア抑留者、海外からの引揚げ者について知ることができるところです。

東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル33階
TEL:03-5323-8709 FAX:03-5323-8714 <https://www.heiwakinen.go.jp>



@heiwakinen

